

シンククライアント環境での出力業務のお困りごとを一気に解決!

リコーの「仮想プリンタードライバー」が 安心・安全な出力環境を提供します。



お客様の取り組み/導入の背景

地域の中核医療機関として 救急医療や高度医療に貢献



社会福祉法人 恩賜財団
済生会熊本病院 院長
副島 秀久 様

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院様は、地域の中核医療機関としての大きな役割を担っている。地域の人々から大きな信頼を寄せられている理由は、「4つの基本方針」にある。

1つ目の「救急医療」では、専門医療チームが24時間迅速に対応する体制と設備を整えている。2010年には、救命救急センターに認定された。2つ目の「高度医療」で

は、2007年に「外来がん治療センター」を新設。最新の放射線治療や化学療法を実施している。

3つ目の「地域医療と予防医学」では、予防医療センターでの人間ドックなど病気予防と健康増進に力を注いでいる。4つ目の「医療人の育成」では、地域の医療人向けに教育プログラムを用意。地域全体の医療の質向上を図る施策を推進している。

こうした先進的な医療活動を支えているのがITである。院長の副島秀久氏は、「高齢社会を迎え、医療や介護をいかに効率的に行うかが重要になっています。ITを活用すれば、医療・介護分野にイノベーションを起こすことができます」と強調する。

課題

シンククライアントシステムの導入で、 印刷操作の問題が発生

済生会熊本病院様の先進的なITの取り組みの1つに、シンククライアントシステムの導入がある。HDDを持たないシンククライアント端末は、セキュリティの強化やアプリケーションの導入・更新など運用管理の一元化に加え、端末の設置場所に制約されることなく情報を利用できるといった様々な利点がある。

シンククライアントシステム(SunRay)を導入した2008年当時、院内の端末数は約900台に達し、既存のデスクトップ端末とシンククライアント端末が混在していた。デスクトップ端末の利用者は面倒な設定などをすることなく、印刷時には端末の近くにあるプリンターから出力できた。しかし、シンククライアントの場合は、院内にある約300台のプリンターの中から、利用者自身が日ごろ使用するいくつかのプリンターをあらかじめ登録しておき、印刷時にはそれらの中から適切な1台を選択する必要がある。シンククライアントの使用場所が多いユーザーほど、事前の登録作業と印刷時の選択作業の負荷が高くなる。

そのため、医療情報システム室では、プリンターの登録や印刷方法を詳しく説明したマニュアルを職員に配布したり、ITが苦手な利用者には直接サポートするなど、負荷となっていた。

また、利用者が操作を誤ると、患者様の個人情報などのセンシティブな情報が、意図しないプリンターに出力されてしまう恐れがあった。

解決

電子カルテの稼働を支える 仮想プリンタードライバー



社会福祉法人 恩賜財団
済生会熊本病院
医療情報システム室
室長 内重 烈様

リコーは済生会熊本病院様の環境や要望を詳しく聞き、「仮想プリンタードライバー」を開発した。仮想プリンタードライバーの導入によって、利用者が使用するプリンターの事前登録と印刷時のプリンター選択作業が不要になった。どのシンクライアント端末からでも画面に表示された1つの仮想プリンタードライバーに対して印刷を実行するだけで近くのプリンターに印刷できるようになり、操作ミスによる誤印刷の心配もなくなった。使い勝手は、既存のデスクトップ端末からの印刷操作と変わらない。

システム管理者にとってのメリットもある。シンクライアント端末からアクセスするユーザー別の仮想デスクトップごとに、機種ごとのプリンタードライバーをインストールする必要がないため、システム管理者の負担を大きく減らすことができた。ラベルプリンターなどリコー以外のプリンターでも使えるため、院内の印刷環境全体で利用できる。

もう一つ、見逃せない点がある。医療情報システム室の室長を務める内重烈氏は、「リコーの仮想プリンタードライバーがなければ、シンクライアント環境で電子カルテシステムを利用するのは難しかったと思います」と述べる。そして同室の野口忠祥氏は、「導入した電子カルテシステムは、端末ごとに一意のプリンターアイコンを割り当てる仕組みであったためです」と、その理由を説明する。



社会福祉法人 恩賜財団
済生会熊本病院
医療情報システム室
主任 野口 忠祥 様

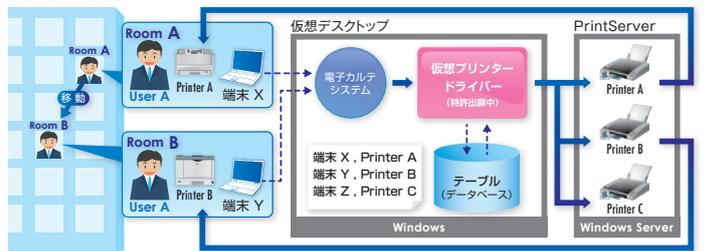
シンクライアントシステム環境上では困難であった、端末の識別とプリンターアイコンの

選択を上位システムの改修無しに実現したのである。その結果、電子カルテの情報と仮想プリンタードライバーが連携できるようになり、例えば、電子カルテシステムから注射オーダーをすると、「注射処方せん」が自動的に操作している端末近くのレーザープリンターに出力される。また、万が一、プリンターの紙詰りなどで印刷不可の状態となっている場合は、利用者に通知する機能なども備える。

【導入前のお困りごと】シンクライアント環境で…



【導入後の効果】



- 解決!**
- 1 利用者が印刷時にプリンターを選択する作業が無くなった
 - 2 端末の近くにあるプリンターで間違いなく印刷できるようになり、誤印刷の心配が無くなった
 - 3 管理者は、仮想デスクトップごとに機種ごとのドライバーをインストールする必要がなくなり、管理負担が激減した
- リコー仮想プリンタードライバーがシンクライアント環境の電子カルテシステム利用を実現

今後の展望

部門システムにも、 仮想プリンタードライバーの適用を計画

今後、済生会熊本病院様は、他の部門システム環境にも仮想プリンタードライバーを適用する計画である。リコーは今回のノウハウを活かしながら、システム運用に合わせたプリンターの振り分けなど、医療機関のお客様の様々な要望に対応していく考えである。

<p>お客様の声</p> <p>目的のプリンターに、間違いなく印刷できるようになりました。これからも、院内のIT活用に関する提案を期待しています。</p> <p>医療情報システム室 室長 内重 烈様</p> <p>リコーの仮想プリンタードライバーを導入したことで、シンクライアント端末からの印刷に関する課題をすべて解決できました。以前は、席を移動して検査業務をこなす場合、検査技師がプリンターを選び直す必要がありましたが、自動で近くのプリンターに出力できるため、本来の業務に集中できます。また、仮想デスクトップ側にプリンタードライバーをインストールする必要がないため、私たちシステム管理者の負担も大きく低減されました。シンクライアント環境の印刷での困りごとを、いくつかのプリンターメーカーさんに相談しましたが、解決案を検討し提示してくれたのはリコーさんだけでした。これからもリコーさんには、院内のIT活用に関する「困りごと」を解決してくれるソリューションの提案を期待しています。</p>	<p>お客様プロフィール</p> <p>社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院</p> <p>■事業概要：専門性に基づく高度な医療の提供を目的にセンター制を採用。臓器別の診療部門とサポートする部門が緊密に連携しながら、患者様にとって最良の医療を行っている。</p> <p>■開設：1935年9月</p> <p>■病床数：400床</p> <p>■診療科数：内科、外科など19科</p> <p>■職員数：1605名</p> <p>■所在地：熊本市近見5-3-1</p> <p>■TEL：096-351-8000</p> <p>■URL：http://www.sk-kumamoto.jp</p>
--	---

この事例のより詳しい内容は、右記WEBページをご覧ください。 <http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/solution/>

株式会社リコー 東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222

<http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/>

リコー製品に関するお問い合わせは「お客様相談センター」で承っております。

お客様相談センター 050-3786-3999

●受付時間：平日(月～金)9時～12時、13時～17時(土日、祝祭日、弊社休業日を除く) *050ビジネスダイヤルは、一部のIP電話を除き、通話料はご利用者負担となります。 *上記番号をご利用いただけない方は、03-4330-0368をご利用ください。 *音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュボタンでお知らせください。 トーン信号が出力されない電話機でお掛けの場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレータに接続します。 ※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただきます。 ※受付時間を含め、記載のサービス内容は予告無く変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。 <http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/>

■リコーにご提供いただいたお客様の個人情報の取り扱い方針については、当社ホームページでご確認いただけます。

●お問い合わせ・ご用命は…